

24. 家兎 VX-2 腫瘍の $^{201}\text{TlCl}$ シンチによる放射線治療効果判定の検討

西垣内一哉 菅 一能 藤田 岳史
米城 秀 大野 良貴 河田 陽子
中西 敬 (山口大・放)
宇津見博基 山田 典将 (同・放部)

VX-2 腫瘍に放射線治療を行い $^{201}\text{TlCl}$ シンチの治療効果モニター上の有用性を検討した。 $^{201}\text{TlCl}$ は高い腫瘍親和性を示し、腫瘍内の最も高集積部/対側筋肉組織の集積比は非照射群では腫瘍が急速に増大しても変化に乏しく、20 Gy 照射群では照射後 1 週目の集積比が 30% 以上低下した群では縮小消失し、低下が少ない群では増大し増殖に差異をみた。40 Gy 照射群は照射 1 週後で集積比は非照射、20 Gy 照射群に比し著明に低下した。照射後比較的早期の集積性の変化から治療効果が推測できた。組織像や BrdU 取り込みの検討からは $^{201}\text{TlCl}$ は増殖能を有する viable な腫瘍組織に集積していると考えられ、この点も治療効果モニター上、有用と思われた。

25. Ga シンチグラフィで hot kidney を呈した軟部組織原発悪性リンパ腫の 1 例 (未治療例)

渋谷 修 山本 博道 (岡山労災病院・放)
稲垣 登稔 (同・内)
西 英行 (同・外)
津野田雅敏 河野 良寛 清水 光春
武田 芳弘 平木 祥夫 (岡山大・放)

今回われわれは、右大腿外側部の軟部組織に発生したと思われる悪性リンパ腫症例に対し、Ga シンチグラフィを施行したところ、両側腎に異常高集積を認めた。Ga シンチグラフィで、腎に異常を認めず hot kidney を呈する疾患としては、化学療法後、鉄代謝異常、肝機能異常等がよく知られているが、本症例ではいずれも否定的であり、原因は不明であった。しかし 2 回目の Ga シンチで異常高集積が消失しており、その際の血液検査等から何らかの炎症状態の関与も否定できないものと思われた。

26. 悪性リンパ腫化学療法中に両側肺門部に ^{67}Ga の一過性高集積を認めた 1 例

山本 尚幸 山泉 雅光 (愛媛労災病院・放)
村野 健児 (同・内)
棚田 修二 濱本 研 (愛媛大・放)

69 歳男性の悪性リンパ腫化学療法中に、一過性に両側肺門リンパ節に ^{67}Ga の高集積を認めた 1 例を報告した。

患者は甲状腺の悪性リンパ腫 (small lymphocytic type) の術後に、CHOP-Pepleo による化学療法を 3 クール受けたが、化学療法前の検査では異常集積を認めなかった。 ^{67}Ga シンチグラフィにて 2 クール終了後に両側肺門に強い集積を認めた。同時に両側肺野にびまん性の ^{67}Ga の集積を認めたこと、および胸部 CT で肺門リンパ節腫大を認めなかったことなどから、経過を観察したところ、一切の治療なしで 1 年後に肺門への高集積が消失した。

以上より、 ^{67}Ga の一過性高集積の原因として化学療法剤の関与が推測された。

27. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HMDP の淡い集積を示した Neuroblastoma の 5 症例

藤田 岳史 菅 一能 米城 秀
河田 陽子 中西 敬 (山口大・放)
宇津見博基 山田 典将 (同・放部)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HMDP は各種悪性腫瘍における骨転移の検索に用いられている。また一方では骨外性の集積も示すことが知られている。今回われわれも骨シンチ像で、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HMDP の淡い集積を示した神経芽腫 5 例を経験したので報告した。

5 例中、尿中 VMA が高値であった症例は 2 例であり、CT を施行した 4 例では、2 例に石灰化を認めた。集積と尿中 VMA の値には相関関係を認めないという Smith らの報告に、一致するものと思われた。